

# 光市医師会報

平成6年7月号

No. 261



浜辺の賑わい

光市医師会

(会員広場)

## 私が開業した頃の光市医師会

福本 壽雄

昭和26年に医専を卒業して、門司鉄道病院に約7年間勤務した。九大でアルバイトを終えたので、昭和34年に東京八王子の総合病院の内科医長として赴任した。当時八王子は環境が良いので、ここで開業しようと思い土地を購入した。しかし1年もたたない内に、光で開業しておられた大谷惣次郎先生（朝鮮馬山で知人であった）から、後を譲りたいと言われたので、買ったばかりの土地を売り払って、光に帰ってきた。昭和36年、年令34才の時だった。

光えきてビックリ。光は市なのに、村落の集まりのようで、光駅から島田市迄は殆どが田圃であり、国道よりも旧道路の方が賑やかだった時代であった。鉄筋の建物は殆どなく、奥の方に製鉄浅江寮の二棟が新築で立派だったのを覚えている。当時は島田市よりも光井の錦町のあたりが、一番賑やかだったように思う。夜になると車は勿論人通りも全くなく、蛙の声ばかり聞えてきて、全く島流しにあったような気がした。

着任早々、大谷先生とタクシーに乗って2日かかりで、市内の全医療機関（28軒位）を案内して下さい、各先生方にお会いすることが出来、後々の為に大変ありがたかった。ことに光市には旧制中学一級上の上野達也先輩や一級下の富恵 哲君がいたのがとても嬉しく心強かった。

それから2年半、浅江の大谷医院でお手伝いしたが、なかなか後を継がしてもらえ

ないので、先生のご了解を得て、島田市の旧郵便局舎を改造して昭和39年4月に開業した。当時、私とほぼ同年輩の先生方といえば、河村先生、河内山清先生、広田先生、亀田先生、上野先生、竹中先生、丸岩先生、富恵先生位しかいなかった。あとは、お年寄りと言っては失礼だが、

秋本両助先生(82才)、四方元之助先生(77才)、大谷惣次郎先生(74才)、河村済治先生(72才)、石津坂一先生(71才)、中本百助先生(69才)、友広利親先生(68才)、山根義夫先生(68才)、北原正知先生(66才)、中岡視十代先生(66才)、中島恕介先生(64才)、市川 登先生(62才)、前田俊男先生(61才)、近藤美之先生(61才)、梅田 茂先生(57才)、田尻常太郎先生(57才)、小嶋史郎先生(57才)、森 昇 先生(57才)、佐藤佐伊太郎先生(56才)、高畠 潔先生(55才)、河内山良介先生(55才)、吉田三彦先生(51才)



昭和36年11月

大谷医院で





昭和 39 年 4 月

## 古家を改造して開業

松村晴正先生(50才)、大野宗二先生(50才)  
林 孝之先生(46才)

といった錚錚たるメンバーであり、その上  
軍医出身者が多く、矚目として威厳があり、  
声をかけるところか、傍にも近寄り難い存  
在であった。

当時は、医師会の理事会などあったので  
あろうが、我々若輩には全く判らず、又調  
べてみても記録らしいものも、あまり見当  
らない。理事会は、高畠会長の御自宅で行  
われていたらしいので、多分議題らしい議  
題はあまりなく、懇親的な雑談が多かった  
のではないかと想像される。(失礼)それ程  
のんびりした良き時代だったのであろう。

当時の役員は、

会長 高畠先生 副会長 田尻先生  
理事は、前田、梅田、佐藤、林の各先生、  
監事は、森先生、松村先生  
議長 近藤先生、副議長 広田先生だった。

例会場は、昭和44年に室積の旧役場に移  
転する迄、光井の光ライオンズ例会場(中  
野歯科の裏)で行われていた。今のように、  
報告事項、協議事項もあまり多くなかった  
ようだが、一つの問題に対して、賛否両論

の議論が百出し、なかなか、まとまらない  
ことが多かったように思う。ことに、名を  
上げては失礼だが、当時市民病院長、森昇  
先生と中央病院長、河内山良介先生の議論  
の激しかったことをよく覚えている。

その外、大谷先生、佐藤先生、石津先生、  
梅田先生、近藤先生なども、お元気が良か  
ったように覚えている。議論が伯仲した折  
によく仲介に入って宥めておられたのが、  
前田先生と林先生だったように思う。この  
ように多くの先生方は、個性的な方が多く、  
思っていることを忌憚なく発言されるので、  
夜遅く迄かかることも多かった。

しかし例会終了後、クラブ道や水牛など  
に行ったり、又定時総会や忘年会(ひかり  
荘か観光旅館)などになると、日頃の白熱  
した議論など全く忘れてしまったように、  
みんなザックバランで、又元軍医殿らしく  
元気に歌ったり、踊ったり、仲居さんをか  
らかったりして、豪快にそして楽しそうな  
宴会になっておりました。その反面、私共  
若い連中は末席の方で小さくなって座り、  
酒を注いでくれる仲居さんもおらず、1人  
で手酌が隣同志で注ぎ合って静かに飲んで  
おりました。宴会の時よく飛び出す芸は、  
(1)石津先生のカッポレ

(2)大谷、前田、高畠各先生の謡曲や仕舞  
(3)大谷先生の奇術(自称ひかり天勝)

などであったように記憶している。宴会が  
終ると、梅田先生、佐藤先生、森先生、田  
尻先生、吉田先生、高畠先生などが大挙し  
て二次会(徳山)に繰り出し、12時過ぎて  
御帰宅のことが多かったようです。その為、  
田尻先生に、よく「午前様」という渾名が  
つけられてしまった。私とそのグループに

お付き合いさせて頂いてから、田尻先生より「午前様の良い後継者が出来た」とよく言われておりました。ことごとさように昭和39年頃の光医師会は、人数こそ38人位であったが、元気のよい個性的な朗らかな先生方が多く、楽しい医師会であった。

しかし、私が開業した昭和39年より昭和47年迄の9年間に、13人の先生方が次々に御逝去されている。

- 昭和39年、河村済治先生、市川 登先生、
- 昭和40年、梅田 茂先生
- 昭和41年、河内山良介先生
- 昭和42年、大谷惣次郎先生
- 昭和43年、中本百助先生、秋本良助先生
- 昭和45年、上野達也先生、四方元之助先生
- 昭和46年、石津坂一先生
- 昭和47年、北原正知先生、山根義夫先生  
近藤美之先生

このように、次々に大先生方を亡くし、医師会もみんな意気消沈し、お互いに夜遊びなどの自重を申し合せた程だった。そしてその頃から、徳山や湯田の学会や旅行なども少々遠のいてしまった。

振り返ってみると、昭和37年頃より光医師会も若い会員が次第に増え、野球、ソフ

トボールやゴルフなど若いエネルギーを発散させるのに、もってこいのスポーツがはやり出し、若い会員の親睦を深めた。

まず、野球、ソフトボールであるが、亀田、上野両君が中心となり、河村、竹中、富恵、広田、高島、大野、松村、中村(琢)、河内山(清)、林、山井、伊藤の各先生と、メンバーには苦勞せず、いつも10~12人位集まっていた。月に2~3回の練習に磨きがかかり、実力を上げてきたので、歯科医師会との定期試合、市立病院との試合、市会議員との対抗試合、消防署の係長以上との親睦試合などを行った。そして、それが誠に成績がよく気炎を上げていて、打上げのビールもうまかった。但し、下関大丸の女子ソフトボールチームだったと思うが、女子チームと試合をして、初めから楽勝だと始めてかかったところ、コテンパンに惨敗して打上げの酒も飲めなかった。

光医チームの主なるポジションは、監督(森、田尻)、投手(上野、河村、竹中)捕手(亀田、河内山清)一塁(広田、大野松村)内野手(富恵、竹中、上野)外野手(河内山清、中村琢、上野、亀田、福本)のようであった。早速に、ユニホームを新



40.9.12 野球大会準優勝

最強メンバー

- |       |    |    |    |    |    |    |    |                |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----------------|
| 福本    | 森尻 | 田村 | 河村 | 富恵 | 竹中 | 広田 | 亀田 | 富恵(娘)<br>富恵(父) |
| 中村(琢) | 上野 | 大野 | 高島 | 三浦 |    |    |    |                |



調し、県医師会であった、郡市対抗野球大会や医師国保ソフトボール大会に、毎年のように出場した。1回戦で敗退もあったが、昭和37年第1回医師国保ソフトボール大会では初優勝した。次いで昭和39年、40年の郡市対抗野球大会では、2年連続準優勝の栄冠を得た。そして帰途、湯野温泉で祝勝会をやり、いばって凱施したものだ。

次にゴルフであるが、大野先生を師範格として、昭和41年より毎月のように光C.C.に於て、コンペを行っていた。出席率も非常によく、スタートを決める幹事もあまり頭を悩ますことも、なかったようだった。その内、みんな腕を上げ、下松医師会や岩国医師会から対抗試合を申し込まれたが、最初は良く勝っていた。しかし、その内相手チームが強くなり過ぎ、全く歯が立たなくなってしまう。その上昭和45年に上野君が亡くなってから皆元気がなくなった。私は、日頃から練習など全くせず、3ヶ月に1回位コンペに出ていたので、ハンディ

ーは上らず、B.MかB.Bばかり貰っていた。しかし一度別府の豊岡だったか、初めて3位の賞品を貰った時は、皆に冷かされた。そして、野球、ソフトボールやゴルフの後には、必ず徳山に皆で飲みに出掛けた。午前様での帰宅が多かったのも、奥様方は、あまりよい顔はしていなかったようだった。

しかし、この頃は戦中、戦後で青春を失った我々にとっての、せめてものの抵抗、反動であったような気がする。今考えてみると、昭和36年から昭和45年迄の10年間が私にとって、仕事に於ても、遊びに於ても最もすばらしい青春時代であったように思う。

でも、このように楽しいことばかりでなく、時代と共に、医師として、医師会としての行事や業務が次第に増えてきた。昭和42年より夏期の虹ヶ浜、室積両海水浴場の救護班としての出務開始。昭和43年より日曜日に交代で牛島へ出張診療開始。



於 韓国東萊C.C.  
グリーン上の迷パット  
富 恵 哲 君と…

又同年より日曜当番医制実施  
 又同年、光市学校保健会発足による学校保健会開催、  
 昭和46年頃より本格的に予防接種出務  
 昭和48年、徳山湾汚染による水銀汚染健康調査の実施  
 昭和49年より大気汚染による健康調査、  
 又同年頃より、循環器住民検診実施  
 などなど、次々に健診業務、休日診療などが増えてきて、ゆっくり遊ぶ暇もなくなってきた。今でも続いている親睦を兼ねた遊びと言えば、昭和40年頃から始めた、各医

療機関の従業員との懇親会（ソフトボール、バレーボール、運動会、ディスコ、旅行など）とゴルフの二つのみとなってしまった。

現在、不景気、低医療費の世の中でありながら、我々医師は昔以上（2～3倍）にも忙がしくなっている。若い先生方に、何とか昔のような楽しくて親睦を深める遊びをもう少し勉強して欲しいと思う。これは年寄りの戯言か？苦言か？願望か？  
 25～30年前を、いろいろ回想しつつ筆を擱きたいと思う。

(1994. 6. 23記)

## 6 月 医 師 会 月 間 行 事

日	行 事	場 所	出 席 者
10	心 電 図 研 究 会	光 市 立 病 院	8 名 (光市医師会)
14	定 例 理 事 会	光市医師会(光商工会議所)	7 名
28	学 術 講 演 会	光勤労者総合福祉センター	25 名
◇	月 例 会	◇	◇

### 定例理事会

日時：6月14日(火) 午後7時30分～

場所：光市医師会(光商工会議所)

出席者：近藤、前田、市川、藤村、藤原  
 光武、吉村

議題

1) 医師連盟代表者会議の報告 (近藤)

2) 常任理事選出について (近藤)  
 吉村理事を常任理事に選出

3) 被爆者検診契約について (近藤)  
 交付金基準額提示を了承

4) 学校保険総会の案内について(前田)  
 6月23日(木)、午後13時30分～  
 於一光市役所

5) 周南地域週産期救急搬送協議会の報告



- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 6) 救急電話連絡網について      | ①従業員との親睦会の件        |
| 7) 保険担当理事協議会報告 (光武) | 候補地の選定             |
| 8) その他              | ②都市役員担当理事協議会の報告書の件 |
| ①周南医学会演題の件          | ③簡易保険加入の件          |
| ②納涼懇親会の件            | できるだけ加入され、少しでも財源を  |
| 7月28日(木)の予定         | 確保したい旨説明           |

## 役員協議の報告

### 平成6年度 第1回都市医師会医事紛争対策 担当理事連絡協議会

藤原邦彦

藤野会長挨拶医事紛争の高まりは患者側の権利意識の昂まりを知り医学の長足の進歩とそれを学びとる努力をすることで対応する。最近の傾向として、賠償額の高額化や自賠償、労災との絡みが見られる。

#### 協議

- 1 平成5年度医事法制事業報告
- 2 平成6年度医事法制事業計画
- 3 平成5年度医事紛争発生状況
- 4 質問・要望について

1) 都市単位で事故未然防止のための企画あるいは行事があり、効を奏している事例があればご教示いただきたい。(萩市)

2) 医師賠償責任保険(100万円以下一日医扱いの免責分)の加入状況(光市)

3) 賠償額1億円以上の事例はないか。もし、このような場合の保険の支払いはどうなるのか。(光市)

#### 5 その他

鑑定、裁量権等に関して事例を参考に説

明を受ける。

詳しくは勉強会の時に説明する予定です。

### 都市生涯教育担当理事協議会 赤崎信正

6月30日、藤野会長、岡沢専務理事の他、多数の県医師会担当理事の参加のもとに開かれました。

議題の主は昨年度より変更になった、生涯教育の申告及び点数の問題でした。

また、次期医学会総会は平成7年7月20日(日)吉南医師会の引受けで行われる予定です。平成8年は徳山の予定、平成9年は山口市(決定)で、平成10年または11年頃には当市?かも知れません。

平成7年度より生涯研修セミナーが少し変更します。年6回より4回に減り、量より質に変化したいとのこと。内容は救急医療、難病、老人医学に落着くと思いません。

最後に藤野会長は病診連携を一層深くする為に、各地区の体験学習をもっと積極的にする必要があると強調されていました。

## 学術講演会

日時：6月28日(火) 午後7時～  
 場所：光勤労者総合福祉センター  
 演題：「エイズウイルスの基礎と臨床」  
 講師：山口大学医学部 寄生体学講座  
 助教授 小林信之先生



## 月例会

6月28日学術講演会終了後

議題：

- 1) 医師連盟会議の報告
- 2) 保険担当理事協議会の報告
- 3) 緊急連絡網について
- 4) その他

原爆被爆者健診の件

## 第72回心電図研究会

光市：下松医師会合同

日時：6月10日(金) 午後7時30分～  
 場所：光市立病院  
 出席者：8名(光市医師会)  
 症例：

- 1) 66才・♂, DOA状態の症例一解離性  
大動瘤
- 2) 61才・♂, 下壁梗塞+心房細動
- 3) 71才・♂, 心室中隔梗塞

## エイズウイルスの講演会 をおわって 赤崎信正

今まで、エイズの臨床の話は、光市の日和見感染症、周南医学会、県医師会主催での講演と三回にわたっておこなわれました。ウイルスのTリンパ球の感染症とは理解できたのですが、今回、難しいとは思いましたが、更に理解を深めるために、“エイズウイルス基礎”ということで、企画しました。

さて、どの方に講師を依頼するか、迷っていましたが、“図説HIV感染症”という本が発刊され、その始めの執筆者に山大寄生体教室の小林助教授の名前がありました。先生とは全く面識はありませんでしたが、5月中旬に教室を訪れ、エイズウイルスの話しをなるべくみやすくとの要望を快く承諾頂きました。

さて、本講演は80分ということで、早速、HIVの電子顕微鏡像、次に模式図がでてまいりました。エンベロープ、gp120、又クレオカプシド、RNA、逆転写酵素、プロウイルス等の耳慣れない言葉がでてまいりました。

HIVのTリンパ球の感染はウイルス遺伝子とCD4物質との親和性による。又、T細胞の減少については、ウイルス感染症自己免疫も考えられるが、最近では、細胞の核内融解をおこすアポトーシスが考えられている。

エイズ症状の発現については、サイトカインの一種の腫瘍壊死因子が関係している。最後に治療としては、逆転写阻害剤のAZ



Aが現在のところ一番有効であるが、将来はカプシド、エンベロープを用いたワクチンの開発がおこなわれる。

難しい内容でも、会員の皆様に御理解いただけたと思います。次回のエイズ感染症の講演までに、有効なワクチンができるよう祈りながら原稿を終わります。

### 会員の会議等への出務

山口県学校保健連合会理事会

6月2日—山口県庁 福本

都市医事紛争対策担当理事協議会

6月16日—県医師会館 藤原

都市生涯教育担当理事協議会

6月30日—県医師会館 赤崎

平成6年度光市学校保健会総会

6月23日—光市役所 福本

(特別助言) 前田、中村(国)、藤原

横山、

### あ と が き

「とにかく暑いですね」「去年の夏とは大違いですね」。こんな会話が今の挨拶の代りになっております。去年が永雨による記録的な冷夏で、そして今年は梅雨がわずかな期間しかなく、連日寒暖計はウナギ登りで35度を越す猛暑です。去年と今年をタシて2で割れば丁度よいのではないかと思うくらいです。

この暑さで虹ヶ浜海水浴場は大変な賑わいを見せております。7月23日の大暑の頃が一番暑いと言われておりますが、日本で最高気温は昭和8年7月25日の山形市での40.8度だそうです。

各地の水不足が報道されておりますが、ことに四国高松では大変深刻になっております。これだけ雨が降りませんと、昔ながらの「雨乞い」でもしたくなります。農耕民族の日本では「お籠り」「雨乞い踊り」「百杓洗い」「千駄焚き」などいろんな雨乞いの行事の言い伝えが残っているようです。玖珂郡錦町に龍神池というのがあって、この池の水をかきまわし、藁製の籠を奉納して雨乞いをする風習があったそうです。7月19日に柳井市で「雨乞い太鼓」という行事がおこなわれたとテレビのニュースで言うておりました。かなわぬ神頼み、思いは同じなのでしょう。

今月は福本先生に昭和30年・40年頃の光医師会の表の話し・裏の話しを書いていただきました。旧き良き時代を垣間見る事ができました。有難うございました。

これからもきびしい暑さがつづくと思われれます。光市にも「雨乞い」の風習が残っているのでしょうか。

(吉村)

